



～母の日おもしろエピソード受賞作品 10 作品～

小学生の頃、内緒で母の日の花を買いに貯めたお小遣いをもち、自転車で花屋へ行きました。しかし小学生の私は母の日はバラをあげると勘違いしており、さらに、びっくりさせようと思って赤ではなくオレンジのバラを花束にしてみました。

うきうきしながらかごにバラの花束を乗せ自転車を激こぎし、帰りました。

私「いつもありがとう！！母の日やで！」

母「これは……バラやなあ？」

私「うん！綺麗やろ！」

母「母の日はカーネーションやんか！！笑

でもこんな綺麗な色のバラの花束、初めてもらったわ嬉しいなあありがとう！」

私「ええええええー！！」

私は衝撃的でしたがバラの花束ですごく笑顔になってくれた母の顔が忘れられず、その嬉しそうな顔が見たくて毎年プレゼントを贈りたくなります。

そして、大人になり思います。花屋さん、母の日なんだからバラじゃなくて「カーネーションじゃない？」と教えて…笑

私の母親は72歳になりました。今でもパートに出て働き者のお母さんです。同じ市内に住んでいますが、1週間に1回は心配もあり安否確認しています。毎回、何時に電話しても『お母さん元気？変わりない？寝てたかな？』に対して『元気だよ！毎日色々忙しいアピールをしてお母さんは寝ないからいつも起きているよ』のやり取りです。私的にまず寝ない人は居ないと思っています。

最近、パートの出勤時間を1時間も早く勘違いして行ってしまい尚且誰も居なくても気付かないで店長に何かあったのかもしれないと思い込み個人携帯に連絡して『何かあったのですか？今日は急遽休みにになりましたか？』とても笑えます。

今度は3日後の友達とのハイキングでは、朝の6時集合でしたが昼寝をしたらしく夜の5時半に目覚め飛び起きてきちんと確認もしないで友達へ電話して『私寝過ぎちゃって時間に間に合わないから今回キャンセル！』もちろん友達は何の事やら『えっ？明日行けなくなったの？』『違うよ！間に合わないの！』こんなやり取りをして時差ボケに気付き大笑いしました。友達のようなお母さんには昔から笑わせて貰っています。いつまでも元気で長生きして欲しいと願っています。私なりにユニークなお母さんに今年もプレゼントを持って思いっきり笑って過ごす予定です。

先日母の誕生日でした。普段から健康志向の母でして、ここ最近はいきのこを意識的に食べるようにしているようです。そんな母が友人からきのこ栽培キットを貰い、お家できのこ狩りができるというなんとも面白そうなプレゼントに大変喜んでいました。

早速開封してみると中には切り株のような物があり、そこにきのこ菌が付着しているようでした。説明書通りに進め、管理はとても簡単で、とりあえず霧吹きで切り株に毎日水を与えるというものでした。

霧吹きに使える適当な容器を見つけ水を入れて吹きかけること2日。説明書によれば既にキノコがニョキニョキ生えてもおおしくないのですが一向にキノコは出てこず。

3日4日と過ぎ、ふと気づいたのが、霧吹きのボトルがもともとはアルコール除菌の液体が入ってたものでした。恐らく、キノコの菌を除菌してしまったようです。。

栽培キットをくれたお友達には悪くて言えないようで、、なので、今回の母の日はキノコの栽培キットで決まりです😅今度は除菌しないように大切に育ててきのこ狩りを楽しんでもらいたいです。

あれは忘れもしない中1の春。慣れないブカブカな制服を身にまとい、始まったばかりのクラスにさえ慣れていない4月。親子で参加する進路説明会が体育館でありました。

一組から七組まで1クラス40人弱が名前順に親子で隣同士に並んで座っていました。高校への進路の説明の中盤、私の母は突然とんでもない大きさの「くしゃみ」をしたのです。

場所は体育館。先生一人がマイクで説明を行っている真っ只中。かなり静かな時間に。

「は一つくしょー————ん！！！」

一発でしたがあまりのデカさに周りの親子が肩を震わせて笑うのを我慢しているのが分かりました。当の本人は我慢できずに声を抑えきれず笑ってしまっているではありませんか！

思春期の私…。恥ずかしすぎて下を向くしかありませんでした。

説明会が終わると「途中、すっげ〜くしゃみしてる人いなかった？！！」と男子たちの話題になっています。

「私の周りの人、神であってくれ〜！！チクるなよ〜チクるなよ〜」という切実な願いは10分も持たず学年中の噂話になりました。

あれから数週間は母を恨みましたが見事に遺伝してしまいました。どうやったら小さいくしゃみが出るのかわかりません。

今でさえ笑って話せますが、自分でくしゃみをして笑ってしまっていた寛大な母に、私も心にゆとりを持った母になりたいという気持ちを込めてプレゼントを送りたいと思います。いつもありがとう。孫たちにもあのくしゃみを聞かせてあげてね。

私は 30 代の主婦。4 年前に娘が生まれてから、うちの母は娘のことを溺愛してくれている。

どれぐらい溺愛してるかというと、とにかく娘の行動にはどんなことでも肯定してくれる。

虫が嫌いで、娘が公園で虫を避けているところを見れば「虫が好きで持ち帰ってくるよりいいじゃない！」とぺこば並に全力で肯定してくれる。

「い～や虫を持ち帰ってくるよりいい！！フユ～」と松陰寺が言ってるところが見えそうなくらいである。

先日そんな孫溺愛の母と娘の 3 人で買い物に行った時のこと。すれ違ったおばちゃんが娘を見てかわいいわね～と声をかけてくれた。

すると母はすかさず「そうなのよ～自分の子供よりかわいいの！」と。

あれ!?…少々複雑な思いにはなったが、それだけ孫を愛してくれていることに感謝するべきか…

「い～や孫は目に入れても痛くないというのは本当だ！フユ～」ついに私もメンタルが松陰寺化してきた。

そんな母には娘が描いた似顔絵をプレゼントしようかと思う。

私の母がお花好きということもあり、毎年『母の日』には色々な種類のお花を送っていました。

欲しがっていた薔薇…やっと見つけてプレゼントしましたが、半年後には枯らされ…

違う年には定番のカーネーションの鉢植えをプレゼントしましたが、水やりの失敗ですぐに枯らされ…

毎年毎年…よくまあ、こんなに枯らせられるなあ(笑)

後々になり、「あの時の薔薇…」と私が話しをすると「**そんなの貰ったっけ？**」と言う始末…。

懲りずに毎年、お花を送る私と枯らしてしまい、貰ったことも忘れる母…

絶対に枯らされないように、今年は何にしようかと、考えています。

丈夫でたくましいお花をプレゼントしたいなあと思っています！

今年こそっ！！と意気込む娘です。

子どもが幼稚園の頃母の日の製作で先生に「お母さんの顔を描いてね」と言われ一生懸命描いてプレゼントが出来上がりました。母の日の前の日に持ち帰って来たのですが、お友達はみんな「ママプレゼント」とママに渡しているのに、何故か我が子は渡してくれないのです。「ママのプレゼントあるのかな？」と聞いてみると「え！無いよ」と言うのです。「手提げに入っているけどな～」と、突っ込んでみると「これはお母さんのプレゼント。先生がお母さんにとって言ったもん」ときっぱりと自信を持って答えている娘。実家の母を、娘は「お母さん」と呼んでいたとはいえ、まさか、**初めての集団生活で作った製作が私ではなく、私の母だとは。**絵の感じも、私ではないな』とわかるほどでした。祖母になる私の母は「よく描けたな」と大喜び。それ以来、母の日のプレゼントは、毎回母の顔でした。そんな娘も大きくなり母の日のプレゼントは、市販の母が好きそうな洋服や、お花にして一緒に選んでいます。「ママも母の日なんだよね～」と、心の中で言っています。

私が保育園児の時、母の日に渡したプレゼントを母は今でも大切に使ってくれています。

それは長方形の積み木を 12 個並べて作った『花瓶敷き』です。花瓶が倒れないように高さがピッタリの積み木を慎重に並べて作ったのを今でも覚えています。なんの飾りもない花瓶敷きですが渡した時に母はとても喜んでくれました。しかし数日後に花瓶敷きの上ののっていたのは…お鍋でした。私は母が間違えたのだと思い、母に花瓶敷きだと伝えましたが、母に丈夫な鍋敷きで気に入っているとやられてしまいました。それから花瓶敷きの上に花瓶がのることは一度もありませんでした。

学生の時は鍋がのっているのを見るたびに花瓶敷きだったのに～と少し残念に思っていたのですが、未だに使ってもらえるなら鍋敷きでも良いかなと思えるようになりました。

もう 30 年以上経つので、最近ボンドがとれて 2 つに分かれてしまいました。ボンドで修復するのかと思ったら、「小さい鍋の時は 1 つで大きい鍋の時は 2 つ組み合わせて使えるから、さらに使い勝手が良くなったのよ～♪」と母は鍋をのせていました。あと何年使えるのか楽しみです。

私の母は、とにかく心配症です。ちょっと大きな音がすれば、私がどこかから落ちたんじゃないかと血相を変えて飛んでくる、トイレが少し長くなれば「大丈夫？大丈夫？」とドアの向こうから心配してくる、私はそんな母に温かく守られながら幼少時代を過ごしました。

そして、先日、私の高校生の娘に、しみじみ「ばあばがママだったら良かったのにな。優しくてさー。」と言われました。私が「そしたらママと姉妹だね。」と言うと、「えー、それは嫌。でも、ママがお姉ちゃんは絶対考えられないけど、妹ならまあいいよ。」と。

ママじゃなくて妹…、普段の私の関わり方を反省しつつ、私のママがママだったら良いと言われたことに、嬉しさを覚えました。いくつになっても、子ども想い、孫想いの自慢の母です。

そんな母だから、プレゼントを贈りたいです。

私も誰かに「私のママだったら良かったのにな。」と言ってもらえるような、母を目指します！

今のところは妹にしてもらえるのが精一杯なので、まだまだ精進致します！

社会人になって、20年目となりました。今まで恥ずかしく、なかなか母親にお礼が出来ないでいたことに対して、この社会人となって20年目の母の日にお礼をしようと考えてました。私が、高校3年の大学受験の際に、京都の国立大学を受験しました。遠方であり、母親に付き添ってもらい、受験しに京都に行きました。結果は、不合格でした。**私は、悔しく涙しました。母親も泣いてました。**高い交通費、宿泊代など、申し訳無いことばかりで不甲斐ない自分への怒りで、ずっと泣いていたこと、今でも覚えています。社会人になり、長い年月は経ちましたが、その時のお礼をどうしてもしたい、泣かせてしまったお詫びをしたいと考え、母の日のプレゼントと共にお礼をしました。しかし、予想だにしない返事が来ました。あの時の母親の涙は、悲し涙ではなく、嬉し涙だったのです。京都での生活費、学費など、どうしようかということへの不安しか母親には無く、受験をやめてもらいたいと何度言おうか悩んだぐらいだったらしいです。不合格を聞いた時は、**ほぼガツポーズが出たぐらいの気持ちだったそうです。**それを聞いた私は、もう愕然としたしか表現が出来ないほど驚きましたが、最後には、母親と笑い話になりました。社会人になって20年間、なかなかお礼が言えず、やっと言えたお礼が、こんな笑い話だったとは……という笑い話でした。